

カルタクイーンを生んだまち

競技カルタというカルタがあるのをご存知ですか？ 百人一首 100 枚の取り札のうち、50 枚を使って対戦します。2 人の競技者が向かい合って座り、それぞれ 25 枚の持ち札をならべます。相手の陣地の札を取ったり、相手がお手つきすると自分の札を相手に送れたり、いろんな駆け引きをしながら、先に自分の札を取り終わった方が勝ちです。

競技カルタの名人戦、クイーン戦が毎年滋賀県の近江神宮で開催されますが、名人を 5 期連続あるいは通算 7 期務めると永世名人に、クイーンを通算 5 期務めると永世クイーンと呼ばれます。

競技カルタのトーナメントは昭和 30 年に始まって、現在、永世名人は 4 人、永世クイーンは 3 人です。小野田からも 2 人のクイーンが誕生しました。久保久美子さん(旧姓堀沢 永世クイーン)と今村美智子さんです。お二人は同じ竜王中学校で小林先生から指導を受けました。現在は山口県の各支部で後進の指導に当たってくださっています。

戦後始まった競技カルタは近年、「ちはやふる」などの漫画やアニメのヒットで、今や競技人口 100 万人の人気スポーツ(?)です。そのうち 2500 人が有段者。今村さんも優勝経験者として決勝戦の審判団に登録されています。

近年、年々増加している外国人観光客にも注目されて、カルタの国際化が 10 か国以上と急速に広がっています。2020 年の東京オリンピック・パラリンピックでは、協賛事業として国際大会を行うことが決まっています。視覚障害者(弱視の方)のカルタ大会も行われる予定です。昨年夏、山陽小野田市でも合宿が行われました。今後の動きに大注目ですね。

※詳細は「山口県カルタ協会」HP をご覧ください

今村美智子さん



[小野田きらら交流館のカルタ教室を見学]

畳の和室に 6 組ほどの対戦者が向かい合い、自分の持ち札を 15 分間で暗記します。暗記時間の最後の 2 分間は素振りも。畳を叩く音がバンバン響いて気合い十分です。

持ち札の並べ方、相手に渡す送り札の出し方、頭と反射神経を駆使して技を競うハードな対戦。親子対決、年齢差無視の畳の上のガチの勝負なのです。しかし、そこは百人一首、読み手(有資格者もいます)が、読み札を読む名調子。名人戦などの高位な対戦以外は審判も付かないので、同時に札を取った時は、対戦者同士の話し合いで決めるなど優雅さや礼儀正しさもあります。

上級者は各地の大会に出場しますが、他の競技カルタ教室にも参加して腕を磨いています。

交流館の教室で最上級者は高校生で A 級 4 段です。小学生から親世代まで幅広い世代の方が毎週金曜日の夜 7 時から真剣に、そして楽しく競技をしています。

見学はいつでも OK(事前連絡要)です。ただし読み札が読まれている時は物音厳禁でお願いします。

(文: まっし)



百人一首大会